

## シンポジウムを行ってJCとしての考察

一般社団法人 天草本渡青年会議所

第53代理事長 田中大地

「看護福祉総合学校開設に向けたシンポジウム」を行うにあたって、天草地域の高校生及びその保護者、各種関係施設、教員にアンケート調査をした結果、希望する分野の進学先が天草にあれば学生や保護者は天草に残って進学を希望される方が多いという事と、看護や介護の分野において、専門職の需要が多いことが見えてきました。60周年時まで天草本渡青年会議所が継続して行っていく事業としての方向性は確かなものであると捉えることができます。また、今後は今回の事例であった舞鶴YMCA国際福祉専門学校の誘致活動についてのみでなく、多くの事例を参考にすると共に、行政との関わりについても調査を行う必要があります。政府の方針として在宅医療へシフトされるとされていますが、周囲の学校はどのような対応をしているか等の調査も行い、「地域に必要とされる人材」育成のための情報を常に収集しなければならないと感じました。

雇用は確実にあります。それどころか今後さらに拡大するとされています。地域包括ケアシステムの実現に向けて日本が進んでいる中で、医療・介護・予防・生活支援に至るまで雇用の需要は継続的にありますが、都市部との違いを理解し、天草に求められているものは何なのかも知っておく必要があります。

今回、天草本渡青年会議所が看護福祉総合学校開設に向けて動き出した事を、チラシやSNS、ケーブルテレビや新聞などのメディアでも取り上げて頂き、天草内外の多くの方々に周知することができました。アンケートからは激励の言葉やアドバイス、今後も活動があれば参加したいとの回答を多数頂くことができましたし、継続的に進捗状況を発信することで、新たに多くの方へ周知することが出来、さらなる運動の波及に繋がって行くと感じています。

今後、私達天草本渡青年会議所は55周年時（平成30年）までに、定員増の決定を、若しくは医療の現場から要望が多かった看護学科の2年課程の増設を目指し活動します。そのために来年度以降は、それらを達成するために必要な法令や運営に関する調査を行い、多くの病院、施設や市民からの賛同を頂き、

推進会議の設立を市民の声として行政へ要望書の提出を行うといった具体的考動を起こしていきます。

天草の未来のため、私達一般社団法人天草本渡青年会議所は今後も邁進していきますので、今後ご協力よろしくお願ひします。